

ね / り / ま / 環 / 境 / フ / オ / ー / ラ / ム

1月30日(日)

PM1:30~4:30 ● 練馬公民館

○ 入場無料 ○ 先着300名 ○ ご参加の方に野菜を差し上げます。

# 農のある都市生活

◎ 平成5年度環境教育啓発事業報告(スライド上映)



おおたけ みちしげ  
**大竹 道茂**  
(JA東京中央会参事)

◆ 講演 I ◆

「練馬の農業の現状」



しんじ いそや  
**進士 五十八**  
(東京農業大学教授・農学博士)

◆ 講演 II ◆

「農のある都市生活」

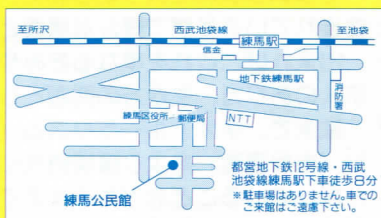


♪ アトラクション ♪

オカリナとフルートの二重奏

オカリナ 伊藤 邦夫

フルート 光山 香世子



主催:練馬区 お問い合わせ:練馬区環境建築部環境保全課 03(3993)1111(内線6696)



●ねりま環境フォーラム●

# 「農のある都市生活」

平成6年1月30日(日)13:30～16:30 練馬公民館

都会に住む私たちにとって「農」はどのような意味を持つのでしょうか。また快適な生活環境の創造と地球環境の保全のためには、何が必要なのでしょう。ねりま環境フォーラムは、都市生活の中での農業・農地の大切さを見直しながら、私たちが何をなすべきかを考える集いです。

●プロフィールとお話しの趣旨

## 大竹道茂 (おおたけ みちしげ)

1944年生まれ。JA東京中央会参事。東京都都市農政推進協議会事務局長。美しい景観をつくる都民会議推進委員会委員。20年にわたる宅地並課税反対運動を推進し、都民・消費者と農家との交流活動など、東京農業の重要性についての啓発活動を展開してきた。

### ●練馬農業の現状

練馬でも多くの生産緑地が認定された。今後、区民の皆さんの理解と協力により、大根やキャベツを育ててきたその農地は、将来にわたって区民のものとして保全される。

練馬には、何代も続いた農家がある。けやき等の繁る屋敷森がある家は農家と言っていい。これまでマスコミ等により、農家と消費者を対決させる誘導があったが、そこからは何も生まれない。相互理解があつてこそ、農と住の調和したうるおいのあるまち・練馬が作られる。

アトラクション

出演

オカリナ 伊藤 邦夫

(さくら草音楽共和国 代表)

フルート 光山香世子

(東京芸大卒)

オカリナとフルートの二重奏をお楽しみ下さい。

●スライド

### ●平成5年度環境教育啓発事業報告●

今年度に行った屋敷森体験教室や、野菜の栽培を中心としたワークショップ、また、今年度から開始した「ねりま環境カレッジ」などの事業をスライドで紹介します。

●プロフィールとお話しの趣旨

## 進士五十八 (しんじ いそや)

東京農業大学農学部造園学科教授。農学博士。造園学・環境計画。1984年第5回田村賞、1989年日本造園学会賞を受賞。日本造園学会理事、日本都市計画学会理事、日本環境教育学会の運営委員。建設省美しいまちづくり懇談会委員、東京都都市美対策委員会。豊島区アメニティ形成審議会会長。著書に『アメニティ・デザイン——ほんとうの環境づくり』(学芸出版社)、『緑のまちづくり学』(学芸出版社)、『公園づくりを考える』(技報堂出版)、『自然環境復元の技術』(浅倉書店)など。

### ●「農」のある都市生活——エコシティとエコライフスタイルをめざして——

いま一番、「農」のことを考えなければならないのは、都会に住む者でしょう。コメの自由化、コメの値段……、それも大事な話題ですが、少くともお金の問題だけに矮少化してはいけないと思います。

人間にとって、人間らしく生きることが出来る環境と生活を、自分の代だけでなく孫の代まで守っていくこと、そのことがハッキリと見透せることが大事なことだと思います。いまの都市がどんな問題を含んでいるのか。こんな環境で、十分な子育てが出来るのか。これから、わたしのふるさとと呼んでいけるのか。

そういう状況を救う切り札に、「農」があること。「農」という一字に含まれている多様で豊かな意義と魅力を、みんなで考えること。

出来れば、これを単なる好みや趣味の域を超えて、現代東京と現代東京人のあり方、生き方の問題として考えてみることに。

欧米で、ネオ・ルーラリズム(田園主義)の言葉やクライン・ガルテン(市民農園)をより環境時代にふさわしく利用していこうという潮流が起っていることなどもふまえて、この練馬なら、幸いに都市農地がまだ保全されている練馬区ならではの「農」のある都市生活像をさぐってみたいと思います。

真のトレンドは、エコシティ、エコライフスタイルです。これこそ現代市民のメイン・テーマであるはずで。